



つまみ菜

平成20年 5月13日
神奈川県農業共済組合

プランターで試して見て下さい、栽培が簡単な野菜

つまみ菜はスーパーでは袋入の荷姿で販売されていますが、馴染みがあまりないためか棚のすみに置かれているのが多いと思います。

タネまきから収穫までの日数がたいへん短く、家庭菜園では育苗箱やプランターで手軽に栽培することができます。

1. 時期と品種

適温期で11～12日で収穫ができ、春から秋までに8～10回くらい収穫ができます。種子の購入は種苗店でつまみ菜として袋で販売されています。種子は主として雪白体菜(しゃくしな)が多く使われています。

2. つくり方

(1) 土づくり

夏の乾燥に弱く、水はけのよい、水保ちのよい土壌が適します。このために良質な堆肥を施し、夏の乾燥に負けない土づくりがポイントです。プランター栽培では園芸用培土の使用が良いでしょう。

(2) タネまき

できるだけ均一に“ばらまき”にします。まき終わったら軽く土をかけ、十分灌水し新聞紙や黒い寒冷しゃをかけ、発芽までの土の乾燥を防ぎます。適温の条件では3～4日で発芽しますので早めに日よけを除きます。

(3) 肥料の方法

生育期間が短いので、肥料は少なめでよく、プランター栽培では園芸用の液肥を施します。

(4) 管理

根が浅いために土壌の乾きすぎに注意し、灌水をします。日中の高温期を避けて早朝か夕方に灌水をします。

(5) 収穫

本葉2～3枚、草丈10cmぐらいで地際部を切れるナイフで収穫します。